助郷嘆願書

都留郡　小立・勝山・長浜・大石・成沢・大嵐七ヶ村

恐れ乍ら書付を以て御嘆願申上げ奉り候

御支配所・甲州都留郡上浅川・小立・勝山・長浜・大石・成沢・大嵐七ヶ村役人共一同申上げ奉り候、今般村高家数人別并に脇往還

勤方有無、其外共書上ぐべき旨仰せ出され、尚又書上げ方延日の村々は、助郷同様御取調べ相成り候趣、御廻状頂戴拝見驚き入り承知畏み奉り、即日御書上げは仕り候え共、私共七ヶ村の義は富士山麓山谷極道無類の土地、其上皆畑切替え畑悪地焼砂交り、雲霧深く諸作実のらず、之に加え猪鹿多く出、作物喰荒し候に付、蒔き仕付けの頃より取入れ迄の間、持ち畑へ小屋掛け置、昼夜共

番いたし、昼は鳴子を挽き、夜は鉄砲打立て追滅しの人足多分相掛り、存外丹誠相営み候え共、地味宜しからず取る実少く、平年扶食八分通り余りも不足に付、女は養蚕・織物手業、男は山稼ぎ仕り、板并に割経木・屋根板・下駄・箸・　杓子、其の外、材木類等木取り・角取り、或は挽き割り、当郡并に近国へ売り捌き候え共、右体富士山根方雪深かの場所に付、冬向き山稼ぎ相成らず候間、村々七八分通り他国他郡へ

出稼ぎ仕り、其余はざる并に竹細工を作り、隣国所々へ是れ亦持参、売り捌きに年分半年程ならでは銘々自宅に罷り在らず、聊の潤物を以て御年貢御上納は勿論、米穀其外日用の品々、駿豆両州且は当国八つ代・山梨郡辺より買入れ候え共、山坂嶮岨を附越し候に付、自然諸品高価に相成り、至って難渋の村々に御座候処、天保度甲州道中黒野田宿其外より

差村いたし、其節歎願奉り候処、御用序で村柄御見分として論所地改め町田庄三郎様外御一人、御廻村御見分御取調べ御座候え共、事実難渋の土地柄故、御差し除き相成り候程の義、且つ亦去る寅年東海道小田原宿より差村いたし、既に御印状を以て当分助郷仰せ付けられ恐縮仕り、前書申上げ奉り候通り、難渋の次第御歎願申上げ奉り候処、御沙汰流れ相成り候義にて、右の外

私共村々の義は山中村口留御番所御囲矢来木等折々村役に伐出し、尚又非常の節に御同所へ見張り人足等差出し、之に加え往古鎌倉往還と唱え候横道之れ有り、駿豆相三ヶ国より当郡山中村へ懸り、川口村通り三坂峠越え、甲府表其外信濃路へ諸家様御通行の時々、私共村々より人馬差出し、川口村へ余荷合勤め仕り候義間々之れ有り、全体当村々の義は極道無頼出稼ぎ専一の

土地柄に御座候処、近来非常引続き御事変、上違作打続き難儀
折柄、今般村高其外御取調べ、且つは御廻状御文意の趣、小前
のもの共種々に弁別に及び心痛罷り在り、此上道中筋へ万一加
助余荷合勤め等仰せ付けられ候義出来候はば、弥増し必至に陥
り潰れ退転、果ては亡村の外御座無く候に付、是れ迄の通り御
差置き相成り候様歎願仕り度き旨、村々小前一同挙げて相歎き、
私共も同様

の義にて、恐れ乍ら難渋至極に付、是非なく今般御歎願申上げ奉り候、何卒出格の御慈悲を以て、前条の次第聞こし召し訳させられ、従来相勤め候加役村役の外、別段宿方へ余荷合等の義は御免除の上、是迄の通り御差置き成し下され度く偏に願上げ奉り候、右願いの通り御聞き済み成し下し置かれ候はば、有難き仕合せに存じ奉り候。以上

御支配所

甲州都留郡七ヶ村役人